



牧之原市議会議長
太田佳晴

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。私にとって昨年は市長就任という大きな転機の年となりました。平成30年が、市民の皆様、そして牧之原市にとってさらなる飛躍の年となるよう全力で取り組んでまいります。昨年は、牧之原市が2020年東京五輪・パラリンピックにおける中国とアメリカのホストタウンに登録されるという大変喜ばしいニュースがありました。15キロの海岸線を有する優位性を生かし、文化交流やサーフィンなどのスポーツ・観光を通じて、沿岸部の活性化につなげていきます。富士山静岡空港については、旅客ターミナルビルの拡張工事や、運営の民営化によって、さらなるインバウンドが見込まれます。さらに空港周辺では、ヘリコプターの整備工場や、サービ

議員全員が一致団結し 市民の期待に添える市議に

市議会は、昨年10月の改選により、新たな体制による議会運営がスタートしました。市民の皆様のご期待に添える市議会となるように、一致団結して頑張つてまいります。さて、牧之原市は合併後12年が過ぎ、市政運営の舵取りは3期市長を務められた前西原市長から杉本市長へとバトンタッチされました。全国で進められた平成の大合併、その嵐の中で生まれた牧之原市は「幸福実現都市」を目指し、多くの市民参加により進められた「対話による協働のまちづくり」が市政運営の柱となり、

成果を上げてきました。一方、この12年を振り返ると、市は厳しい現実の中で諸問題に直面することが多く、時代のめぐり合わせとはいえ、取り組みの成果を市政運営に十分生かしきれなかったようにも感じています。しかし、牧之原市はさまざまな角度から見て大きな可能性を持ったまちであることに変わりはありません。合併後に市民の皆様が協働でまいりました。必ず芽を吹き、花を咲かせ、実を付け、そして次世代につなぐ種を作っていくはず。杉本市長の下で、その大きな花を咲かせることができるよう、私たち市議会もさまざまな課題に取り組み、一生懸命努力する所存でありますので、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、市民の皆様のご健康とご多幸をお祈りして、年頭の挨拶とさせていただきます。

活力と希望にあふれ 誰もが豊かに暮らせるまちに

ところ。訪日外国人は5年連続で最多更新しており、東京五輪による需要を取り込めば、年間空港利用客数100万人の達成も実現可能です。また、国道473号バイパス東萩間インターチェンジ周辺の企業誘致や、相良牧之原インターチェンジ北側の開発により魅力的なにぎわいの場を創出し、産業振興、雇用創出、人口拡大など、市全体に効果が及ぶ新たな拠点の整備を目指していきます。市長となつて、新たな思いで初めて迎える新年にあたり、「子供から高齢者まで誰もが豊かに暮らせるまち」の実現を目指し、市民の皆様がこれまで以上に住み続けたいと実感できる年となるよう取り組んでまいります。引き続き「継続と改革」を休むことなく進め、活力と希望にあふれる地域づくりに努めてまいりますので、本年も市政へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



牧之原市長
杉本基久雄

謹賀新年

平成30年 年頭のごあいさつ

